

九十九里浜の恵み

美しい砂浜の海岸が延々と続いていた。千葉県房総半島東岸は水平線の彼方まで果てしなく広がる太平洋。刑部岬より太東岬の 66km の間を九十九里浜と呼ばれている。日本でも珍しい見事な弓形をした海岸線であった。ここは日本の白砂青松 100 選と日本の諸百選に選定されている。

九十九里という地名の由来は鎌倉時代の源頼朝の命で、この海岸に6町（1町役 109m）を一里として海岸に矢を立てたところ、99本になったという言い伝えによるもの。江戸時代に入ると魚業が栄え遠浅の砂丘海岸であることから、主に地引網によるイワシ漁が盛んに行われていた。その反面大型船が着岸しにくいため漁業は時代と共に衰退していった。



海岸線沿いに柔らかな砂浜を歩いてみた。釣りを楽しむ人を多く見かけた。おそらく浅瀬のため投げ釣りで砂地にいる魚を狙っているのであろう。私の経験からしておそらくキス、カレイ、ヒラメなどであろう。釣れば楽しいしいずれも美味しい魚ばかりである。夏は海水浴で大変な人気の場所となる。また場所によってはサーフィンのメッカでもあるようだ。私が訪れた5月は海水浴にはまだ早く、元気な子供たちが裸で波打ち際を波と戯れ砂遊びをして楽しんでいた。そして特に目を見張ったのが今はやりのカイトサーフィンである。風をうまくつかみ風を両腕で操り足につけたボードで海面を滑らす新しいスポーツだ。私の友人も熱心に取り組んでいる姿を思い出した。

九十九里の海岸線は肉眼で見通せるのかと思いきや、とても見通せるような距離でなかったことに気付かされる。まして風の強さで波しぶきが巻き起こり遠くかすんでしまっていた。

撮影 2015 年春

